



「非認知能力」 学びに向かう力

「非認知能力」とは

「非認知能力」とは、テストで測ることのできる読み、書き、計算などとは異なり、好奇心や探求心をもって取り組む力や考えを言葉で伝える力、目的に向かって協力する力やあきらめずにがんばる力などを言います。

園では、遊びや生活の中で様々な体験を通して「非認知能力」を育てています。

好奇心をもつ

「おもしろそう」と心が動き、「こうしたい」という目的を実現するために、試したり工夫したりする中で新たな発見をします。

やる気をさらに伸ばしていくために、子どもの主体的な取り組みを支えることが大切です。



発見や考えを次に生かす

みんなで力を合わせる

幼児期に多くの人と関わって楽しさを感じたり、困っている人を支えたり、自分が助けてもらったときの喜びを味わったりする経験が大切です。

こうした経験が、友達と考え合って力を合わせ、喜びを分かち合う協同性の育成につながります。



みんなで協力して目的に向かう



友達の応援であきらめずにがんばる

あきらめずに最後までがんばる

子どもは、やりたいことを実現するために物事に粘り強く取り組むようになります。何度やってもうまくできないことを成功させたいとき、その気持ちを支える応援や見守りが大切です。

こうした幼児期に培う「非認知能力」は、小学校以降の主体的な学びの土台となっていきます。

